

令和5年度 学校評価書

評価基準

4、A(期待以上…8割以上)	3、B(ほぼ期待通り…5～8割)	2、C(期待を下回る…2～5割)	1、D(改善を要する…2割未満)
----------------	------------------	------------------	------------------

都城市立西中学校

本年度の重点目標		評価項目	生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント	自己評定(総合)	学校運営協議会評価	学校運営協議会コメント
豊かな心の育成	命を大切に、感謝の気持ちを育てる。	① 生徒の悩みや相談に適切に対応している。	3.2	2.8	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学期1回の教育相談期間を設け、定期的にもやもやアンケートも実施した。いつでも相談できる環境(関係)づくりを更に構築する必要がある。 ○ ピアサポート活動の取組を通年でを行い、生徒の意識の高まりが見られた。 ○ 生徒及び保護者のスクールカウンセラーの活用を図ることができた。また、関係機関との連携を図ることができた。 ○ 命を大切に授業を学年ごとに共通テーマを設け、実施した。 ○ 今年度、親子奉仕作業の実施方法を変更し、生徒は任意とした。清掃への取組は、良好である。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何かあった時の相談する場所のあり方や体制作りができていない。 ○ SCが活用されており、連携が図れておりよい。 ○ 不登校～多様な考え方があるが、SCやSSWなどの関係機関との連携を図り、活用し、現状が改善され減少させていくことを期待する。 ○ 保護者への啓発～生徒参加(子どもの自主性)を育てる。
		② 生徒は、ありがとうの気持ちを進んで示している。	3.6	3.0	2.9				
		③ 生徒は、楽しそうに学校に通っている。	3.3	3.1	3.0				
	清掃や奉仕活動等を家庭で体験させる。	④ 生徒は、家庭で清掃や手伝いをし、きれいな環境で生活できている。	3.3	2.8	2.8				
		⑤ 生徒は、親子奉仕作業や清掃活動に参加している。	2.3	2.6	2.9				
基礎的・基本的な生活習慣の定着	規範意識を身に付けさせる。	⑥ 生徒に校則や社会のルールを守る指導ができています。	3.5	3.0	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校則については、冬季の服装の見直しを行った。また、生徒会活動と連携しながら生徒が主体的に考え、関わる方向で校則の見直しを進めているところである。 ○ 情報端末機の使用(授業、SNS等)の課題・トラブルがあり、家庭と連携した対応が必要である。 ○ あいさつは学校内外で良好であるが個人差があるため、あいさつ指導の継続をしていく必要がある。 ○ 返信や課題等の提出状況は個人差が顕著である。期限厳守の意義を理解させる指導を継続していきたい。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西中生のあいさつは、他校と比べ大変素晴らしい。(民生児童委員の高評価を聞く。児童館を訪れる中学生のあいさつもよい。) ○ あいさつはとてもよいが、その一方で声が小さかったり、できない生徒も見受けられる現状もある。 ○ 校則の見直し～生徒に主体性を持たせる見直しの取組を行っていることは素晴らしく、評価できる。ぜひ、しっかりと進めてほしい。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	⑦ 生徒は、時間を守って行動することができている。	3.5	3.1	2.7				
		⑧ 生徒は、あいさつは「いつでも、どこでも、自分から」を実践できている。	3.4	3.0	2.9				
		⑨ 生徒は、提出物を期限内にきちんと提出できている。	3.3	3.0	2.5				
学習意欲の向上	確かな学力の定着を図る。	⑩ 生徒は、基本的な学習習慣を身に付けている。	3.1	2.6	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習に意欲的に取り組めていない実態がある。宅習ノートの提出義務をなくし2年目になるが、学習習慣の定着・学力向上の手立てとして教科コンクールを年10回実施している。家庭学習習慣の定着・充実を図るために、課題(宿題)の出し方等の更なる方策を講じる必要がある。 ○ 学力定着及び学力向上のために、ICTを活用した授業を実践し、生徒も意欲的に取り組んでいるが、授業形態の工夫や個に応じた指導等、更に授業改善を図る必要がある。 ○ 数学科と英語科でTTや習熟度に応じた少人数指導を行った。 ○ 漢字検定、英語検定、数学検定等の検定試験を約2割の生徒が受験しており、上級取得に向け意欲的に取り組んでいる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西中として真の『文武両道』を目指してほしい。 ○ 学力向上が課題である。将来が明確でないからこそ、将来の進路選択の幅を広げられるようにするためにも基礎学力をしっかりと身に付けさせることが大事である。 ○ 家庭学習について <ul style="list-style-type: none"> ・課題の個別最適化を図る。 ・保護者へタブレット学習についての理解を周知する。 ・習慣化(定着)するために、なぜ勉強するのかを十分に理解させる必要がある。 ・スマホ等の使用についてしっかり管理し、家庭での学習環境を整える必要がある。
		⑪ 生徒が分かりやすいように、授業を工夫している。	3.2	2.7	2.8				
		⑫ それぞれの生徒にあった指導の工夫をしている。	3.2	2.6	2.9				
		⑬ 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。	2.9	2.4	2.1				
	学習意欲の向上を図る。	⑭ 生徒は、漢字検定、英語検定など検定試験に意欲的に参加している。	2.3	2.4	2.8				
		⑮ 生徒は、校内の漢字コンクールなどのコンクールに意欲的に取り組んでいる。	3.3	2.7	2.9				
学校運営協議会や地域連携	ボランティア体験学習を積極的に推進する。	⑯ 生徒は、ボランティア活動など学校や地域の行事に積極的に参加している。	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度は、横市まちづくり協議会等の地域の諸行事が再開され、生徒のボランティアとして参加する機会が増えた。また、地域の方々に講師として来校していただいた。 ○ ホームページやsigfyによる情報発信や、学級・学年通信を継続的に出すことができた。 ※ 学校評価の結果をもとに、生徒、保護者、地域の願いを学校経営により反映できるようにしていきたい。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 横市地区の諸行事等にボランティアとして多くの生徒が参加し、活動の姿勢もよい。また、ボランティアとしての参加だけでなく、スタッフとしての役割も担うようにし、参画するように進められるとよい。[横市まちづくり協議会] ○ ボランティア参加は、地域の大人との関わり場となり、意義がある。
	地域と連携した教育活動の推進	⑰ 教育活動に地域の人材を積極的に活用している。	3.4	2.8	2.7				
	家庭や地域へ情報を積極的に発信する。	⑱ 学級便り、ホームページ、メールなどを通して、積極的に情報を発信している。	3.2	3.1	3.5				